

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげている。	○	今後、地域密着型サービスの役割を反映させていきたい。又、定期的に見直していきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をわかりやすい場所に掲示し、意味を理解し日々の業務に反映させている。又、毎日の申し送り時、唱和している。	○	唱和は今後も継続していきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示している。パンフレットにも明示している。事業所利用時には利用者や家族に説明している。	○	地域に対して、ホーム便り等配布していきたい。その中で理念等理解してもらえよう働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、町内の行事に招待してもらったり、ホームで夏祭りを開催する時は町内の方を招待し、交流を深めている。	○	見学や、認知症に関する説明には応じているが、今後は実習やボランティアの受け入れも検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや意義を、全体会議や申し送り等でスタッフに伝えている。自己評価はスタッフ全員で取り組んだ。評価の結果を基に改善に取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	設置していない。	○ 運営推進会議の設置を検討したい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を設置していない為、積極的ではないが、何か問題があった時は相談したりしている。	○ 今後さらに市町村との連携を強化していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者およびスタッフは、研修等に参加し、権利擁護等について学んでいる。当ホームでも実例があり、解決に至っている。	○ 今後も必要な人がいれば、関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者やスタッフは高齢者虐待防止関連法について、研修等に参加し学ぶ機会を持っている。入浴時等、利用者の体をよく観察したり、本人や家族の訴えに耳を傾け、防止に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	今後更に利用者・家族共に不安や疑問を残さないように働きかけていきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	意見や不満、苦情等は本人の口からはなかなか言い出しにくいものだと思うので、こちらから定期的に聞き取りをしたり、普段の会話の中から本人の気持ちや悩み等聞いていきたいと思う。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	今後も継続していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	意見や不満、苦情等は家族からはなかなか言い出しにくいものだと思うので、こちらから働きかけていきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑え、代わる場合は前もって利用者にお知らせするなどしてダメージを防ぐ配慮をしている。	○	異動や離職は必要最小限に抑えていきたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、研修受講後は報告書（レポート）を作成している。又、その内容を全体会議で報告し、スタッフ全員に周知している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入し、交流会や研修等に積極的に参加している。	○	協会加入を継続していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に一度の全体会議や日常的にもスタッフの悩みやストレスを聞く機会を設けている。スタッフ専用の休憩室があり、ゆっくり休めるようになっている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はスタッフの日々の状況、現場の状況等把握している。就業規則がある。保有資格を活かした職員配置をしている。面談を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は利用希望者やその家族と面談し、身体状況や希望、ニーズ等直接話す機会を設けている。相談を受ける際には、利用を前提として話をすすめるのではなく、言葉遣い等に気を付け、まずはニーズ、希望等を把握するよう努力している。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族がその時点で必要としている支援を見極め、対応できることは柔軟に実行し、すぐ対応できないことは方策を検討している。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常に利用者の視点に立った支援ができるよう努力し、本人、家族双方のニーズに沿ったサービスとなるよう、十分に話し合いを行い、調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の後片付けや草取り、掃除等の日常生活から、踊りや歌等それぞれの得意分野で力が発揮できるよう、スタッフと支えあう関係を築いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密に取り合い、話を聞き、家族の思いを把握している。面会時、状況報告している。	○	十分に把握しているとは言い難いので、今後更に働きかけていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の利用者の様子を、面会時や電話、手紙等で伝えている。又、行事等がある場合には、家族にも積極的に参加を呼びかけている。入所時の聞き取り等でこれまでの関係や家族状況等把握している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて馴染みの場所に出かけられるよう支援している。家族以外の友人・知人等の面会も歓迎している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の仲の良し悪し等、人間関係を把握している。孤立しないよう、スタッフが間に入る等配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じてサービス終了後も家族からの相談を受け付ける等、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向を日々の会話等から把握するよう努め、必要に応じて家族等から情報収集を行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら、生活歴等について、家族から情報収集するなどして把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活を通して、利用者のできること、できないこと、有する力等を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、可能な限り本人の意見を取り入れ、家族の意見等も反映させている。又、週に一回カンファレンスを開催し、スタッフの意見や気付きを基に作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示し、期間終了時見直しを行っている。又、身体状況の変化があったときには随時見直しをしている。見直す際は、本人、家族、スタッフの意見も取り入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に日々の暮らしぶりや身体状況の変化等を具体的に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に応じて、外出支援等行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるよう、警察や消防署等からの協力が得られるよう働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所のケアマネジャーと連携を図っている。	○	現在、地域のおサービスの利用等の事例はないが、今後必要に応じて活用し支援していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内で解決できない困難事例があった時は地域包括支援センターと連携し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。定期的な受診のほか、体調の変化、急変時等はいつでも適切な医療が受けられるよう支援している。受診の結果等、家族にも伝えている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	全利用者ではないが、専門医に相談したり、診断、治療を受けられるよう支援している。	○	利用者一人ひとりに応じた指示や助言をしてくれる医師の確保に努めたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の様子、状態、持病等を十分に把握した看護師を配置している。24時間いつでも気軽に相談できる。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期に退院できるよう、医療機関と情報交換したり話し合う体制を整えている。又、家族とも退院に向けて話し合う体制を整えている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応について、利用者や家族、医療機関と話し合いを行っている。スタッフ間でカンファレンスを行い、家族と本人が望む終末期に向け、統一したケアを行っている。	○	終末期に向け統一したケアを行っているがまだ十分であるとは言いがたい為、今後さらに話し合いを重ね、支援していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでできること・できないことを明確にし、チームとしての支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを理解し、ダメージを最小限とするために、家族等の協力が得られるよう働きかけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ全員が個人情報保護法について概ね理解し、秘密保持の契約を交わしている。利用者の言動を否定したり、拒否することなく、羞恥心に配慮した言葉かけを行っている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中での利用者との関わり、家族からの情報を基に、利用者の希望や嗜好等把握している。利用者の「わかる力」に応じて説明を行い、自己決定を促している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を第一に考え、言動を急かししたり、訴えを後回しにしたりしないよう、希望に沿って支援している。	○	業務に追われ利用者からの希望等が後回しになってしまうことも時々あるため、今後は更に利用者第一ということを頭にいれ支援していききたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みで衣類を選んだり、その人らしいおしゃれが楽しめるよう支援している。理・美容院は、事業所で連絡・調整を行い、送迎し、馴染みの美容院に出かけられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の好みや希望を取り入れている。下ごしらえや後片付けは、可能な限りスタッフと一緒にやっている。昼食はスタッフと一緒に摂っている。会話を楽しみながらさりげなく食べこぼし等サポートしている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう暮らしの中に取り入れている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録している。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導したり声がけしている。その際、利用者の羞恥心やプライバシーに十分配慮し、他者に気づかれないよう行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞き、希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	○	現在、週2回入浴を行っているが、利用者にも定着しているため、そのまま続けている。入浴拒否した場合は、全身清拭、足浴等行っている。今後、暑い季節には毎日シャワー浴も行っていきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の出来事、疲れ具合に応じて休息を取り入れている。眠剤の服用等について、家族や医療機関と相談しながら調整している。不眠時、付き添ったり飲み物を提供するなどして支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や、希望、力を把握し、それに合った役割、楽しみごと、気晴らしを促す働きかけを行っている。	○	今後更に個々のニーズに合わせて支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力量や家族の希望等に配慮しながら、自己管理できる利用者には小遣い程度所持してもらい、自動販売機でジュースを購入したり、ドライブ先でも買い物を楽しめるよう支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の状態に合わせ、できるだけ希望に沿った外出ができるよう支援している。	○	完全に希望に沿っているとは言い難い。全員の希望を受け入れるのは難しい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話などから利用者の行きたい場所の把握に努めている。	○	家族とも相談し、遠足等への参加を促しているが、家族の都合がつかずなかなか実現しないのが現状である。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりになんら制限はなく、自由にやり取りできる。又、利用者あてに電話が来たとき、あるいは電話をかける際は、子機を利用し、自室で電話できるよう、プライバシーにも配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は家族の都合に合わせている。面会の際は湯茶等居室に運んでいる。宿泊の希望にも応じている。	○	面会時間の設定はあるが、時間外でも家族の都合に合わせて対応している。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを実践している。	○	やむを得ず身体拘束する場合は、必ず家族に説明し、同意を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけていないが、自動ドアの開閉ボタンが手の届かない位置に設置されている。利用者の外出傾向を察知した場合は必ずスタッフが付き添う等支援している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してスタッフは常に利用者を見守りやすい場所において利用者の所在や様子を把握している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、利用者の手の届かない、かつ目に付かない場所に保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の様式があり、事故発生時作成し、再発防止に向けた話し合いを行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成している。	○	今後は更に内部研修等開催していきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中だけでなく、夜間想定避難訓練も実施している。	○	今後更に、地域の協力を得られるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの起こり得るリスクについて、その対応策について家族に説明し、話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックし、月に一回体重測定している。少しの変化でも記録に残し、変化に気づいた際には速やかに情報を伝達し、共有している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に、使用している薬の内容を記録している。薬に変更があった場合は、申し送り等で周知している。又、薬による状態変化時、医療機関・家族に相談している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	安易に薬に頼らず、食材やメニューの工夫を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内の洗浄、義歯の手入れを行っている。声がけや介助により、一人ひとりの能力にあった支援をしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、メニューを作成している。毎食時、摂取量を記録している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを作成している。それに基づき内部研修等行っている。インフルエンザ予防接種は、入居者・スタッフ全員行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の在庫表を作成したり、冷蔵庫の清掃、整理をこまめにすることで、衛生に気をつけ、食材を無駄にせず、新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植えたり、園庭を開放し、誰でも楽しめる雰囲気を作っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは大きな声や物音をたてないように配慮している。季節を感じることができるよう、草花を飾ったりしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファを用意し、仲間同士ゆったり団欒できるスペースを確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、茶碗、はし等は以前から愛用している物をできるだけ使用している。	○	使い慣れたものを持参していない利用者もいるので、今後、家族に働きかけたり、自分で選んで購入できる機会を設けるなどして、支援していきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除のとき、窓を開け、換気している。各居室に湿・温計を設置し、管理している。		
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりはつかみやすい位置を考慮し設置されている。車椅子や老人カー、歩行器等を準備し、必要に応じて使用している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室のジュウタンの色を変えたり、入り口に写真を貼るなどして場所間違いを防ぐ工夫をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、ベンチ等用意し利用者が気軽に散歩したり休息したり、草取りをしたりと、活動できるよう敷地を活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者に喜んでもらえるように、旬のもの、季節を感じられる食事を提供している。広い園庭でさまざまな野菜や果物を育て、収穫したものをすぐ調理するなど、新鮮なものを食べてもらえるよう支援している。
- ・庭が広く、たくさんの木や草花があり、目で楽しんだり、散歩したりしながら季節感を感じることができる。
- ・「きろくノート」というものを準備しており、利用者の日々の様子、行事・レクでの楽しみ、受診の結果等さまざまな事柄を写真や文章で記録している。それを面会時などに家族に見てもらい、ホームでの利用者の様子を伝える手段の一つにしている。
- ・カラオケの機械を導入し、好きな歌を歌ってもらうなど利用者の楽しみのひとつになっている。
- ・年に一度最大のイベントとして「夏まつり」を開催し、家族や地域の方々も招待し、利用者を中心に大きな楽しみとなっている。